



# 太子堂 TimesSquare

Vol. 3  
2008.3月

BOOK REVIEW

『空腹力』／石原 結実

PHP研究所 七五六円

最近では、すっかりおなじみのメタボとメタボリックシンドローム。

食べることに困らなくなり、ついつい食べ過ぎてしまう「飽食」の時代。

こんな現代病に頭を抱えてるお父さんも多いのでは？

この食べ過ぎによる血液の汚れで起こる様々な現代病を、漢方医でもある著者が勧める朝食抜きの生活や、生姜入り紅茶での空腹感を感じる生活で体調改善！で予防。

血液にこだわった一冊です。この機会に自分の身体を見直してはいかが？

(高橋弘通)

## 編集部のおすすめ

『図説 難経―易経と難経―』／

西岡 由記

宝栄企画 四〇〇〇円

このような書物が出てしまいました。

今後、難経を研究するための必読書となるでしょう。これ以前と以後とで明らかに一線を画すことは間違いなし。難経を初めて読む人には興味をかき立て

すでに読んだ人には目から鱗。図説でわかりやすいし、著者の臨床体験談も入っていて内容盛りだくさんです。

東洋的な思考とは本質に近づいていく過程であり、本質はシンボルで表現されている。うーん、シンブル！

(の)



## 続 やまい一〇メモ4

### 下肢の特徴 三

院長 小林詔司

足の底の問題でよく話題になるのは、「魚の目」です。  
これは胼胝(たこ)とよく似ていますが、まったく違う性質のものです。  
たこは外部からの刺激に抵抗するために皮膚が厚くなるもので、身体の問題ではありません。ペンだこがいい例で、足にはあまりできません。その証拠に履物を使わない民族もかなりいます。  
つまり足の底はいつも体重がかかっていますが、身体に異常がなければどこにも痛みはなく固いところもないのです。  
足そのものは非常に軟らかいもので、歩く時に地面からのショックを和らげる役割を果たしているのです。

そこに魚の目ができるということは、その所が何らかの理由で弱くなって抵抗能力がないことを示しています。  
原因はもちろん身体の中にあるのです。  
足は身体の一番外の部分です。  
これは東洋的な考えでは、上を陽としますと足は陰の部位となります。  
陰とされるものは、いつも陽を支える役目をもったものです。  
見えるものは見えないものの支えがあって存在するということです。  
つまり足の問題は、何か見えないところの弱りがあると想像できるのです。  
それは究極的には身体の根元的な冷えといいますが、毎日身体を冷やすものを食べているなどのことでも、その理由と

タイムズ・スクウェア

Vol. 3  
2008.3月

して十分考えられるのです。  
魚の目を軽く考えてはいけません。



## やまい一〇メモ 付録

### 髪(かみのけ) その二

大仏様の頭にある粒々は「螺髪(らほつ)」と呼ばれていて実は渦巻き状の髪です。  
現在、インド・ヒンドウの神々の絵葉書を見ると直毛の長い髪が描かれていますが、大仏様の髪が渦巻き状なのは、ガンダーラ芸術の影響が残っているからでしょう。

出家したお坊さんが髪を剃っているのは、手入れや容姿に気を散らさないようにするためでもあります。  
某劇団の合宿で最終日には全員の髪を剃る(勿論女性も)ということがあったそうですが、理由は「自分を捨てるため」です。

それほど人は髪、髪型というものに精神面を左右されています。  
伝承の中でも、髪は特別な力を司っているときれ、髪を切ることでその力を失ってしまうという話が数多くあります。

髪のことを気にしなくてよいということは、本来の自分に返り、様々な束縛から解放されることなのかも知れません。  
(文責の)

## VS患者さん

### 積聚治療の情報源

横山季之

症状の改善において大事なものは、患者さんの訴える痛みをどれだけ理解するか？ ということなのはいまでもありませんが、中でも患者さんのお腹の自覚痛や圧したときの痛みや違和感というのが一番のシグナルであり、インフォメーションであるとして十分に理解することが重要です。というのは、それを症状の「情報源」としているからです。その情報源を分けるから分からないかでは、改善において大きな差となります。

つまり施術側が患者さんの訴える痛みの「場所や強さ」をいかに正確に知ることが出来るか？ ということがよりよい症状改善の善し悪しに繋がってきます。特に慢性症状の場合、痛みが全体的に散漫してしまったり、患者さん自身もどこが痛いのかわからなかったり痛みが慣れ過ぎて痛く感じなかったりします。

そんな情報源の少ない時に、いかに痛みの源をいち早く見つけ出せるかが大事どころです。「本人も気付かない痛み」を見つけ出す事も大切です。  
患者さんは痛みを施術側に伝える、そして施術側は本当の痛みの原因を見つけて出すというコミュニケーションが何より重要になってくるのはいうまでもありません。これは人間関係においても当然言える事だと思います。

言える事だと思います。

今回は、稲森英彦氏と藤原典往氏の『意識について』の対談です。

# コ ウ ム

野平(以下N)・・・治療においての意識の使い方について伺えますか？

稲森(以下I)・・・基本は骨格の視覚化じゃないかな。

N・・・例えばイメージする場合とそうでない場合の違いは感じますか？

I・・・骨などの組織を視覚化すると、雑念が消えて集中し易い。完全に集中した時に指標の変化も大きいと思う。人間は常日頃から頭の中で、現在・過去・未来の物事に対して考えたり、感じていて、あっちこっちに行っているわけですよ。そういう雑念の多い状態が、体を緊張させて気の流れを阻害していると思うのね。どこか一点に集中して雑念が鎮まった時に術者の気の流れが伸びやかに流れて、患者さんの気の流れにも影響を与えるのではないかと。

藤原(以下F)・・・突き詰めればイメージすることも、しないことも最終的に同じ境地に至ると思う。人が何かやるというのには必ず何らかの意識が伴うはずや。イメージを使わなくても腕が上がつてくれば、勘のようなものが働いて同じ事になるんじゃないかな。ただ、ある程度鍼が打てたりお灸を捻れたり出来た段階で、イメージを使うのに慣れてくれば十年かかるところを数年に短縮できると思う。

I・・・患者さんに対して意識的な操作を行わずに、術者の気の流れを良くして、結果的に患者さんの気の流れを整えるという考え方もあるよね。  
F・・・人間の考えることって高が知れて

る。病いって言うのは人知を超えた存在やん。考えてもそれが正しいかどうかは分れへん。何かに囚われていると間違いも犯すから、ニュートラルな状態が大事や。ただ、そうすると集中することと治療の接点に分からなくなる。指標を使う意味は幾つも有るけど、鍼の効果をその場でフィードバック出来て、どう変化するのが把握しやす。

I・・・結果として指標が取れてくると思うのね。指標を変えようとするんじゃないかな。それがその人のいい状態を作ることになるんじゃないかな。  
F・・・意識って実はすごい細分化されて、「痛い」というのでも「全部が痛い」わけじゃなくて反応としての痛みと感情としての痛み、過去の経験と照らし合わせた痛みっていう風に分かれていくでしょ。身体に起こっている現象は同じやねんけども、それによる人の心の動きは違ったりするやん？ 一概に心

つて言っても単純なものやないよね。  
I・・・意識を大きく分けると顕在意識と潜在意識があるよね。積聚治療で使うのは主に顕在意識だけど、心臓や腸など、内臓の生理的な働きは無意識だし、内臓を支配している自律神経系や姿勢や運動を調整する錐体外路系の働きは潜在意識と関わりがあるといわれている。治療において顕在意識のエネルギーを使うより潜在意識の持つエネルギーを活かしたほうが、患者さんの体にとってより自然だと思

ていく場合、果たしてそれが患者さんにとって自然なことかという疑問は残る。

F・・・そのへんはやっぱり技量の問題になつてくるのかなあ。最初の頃に意識しても全然変わらへんかったりするの、時間とともに思った瞬間にパッと変わるとか。何をイメージするかと、自分の持つる技量っていうのが違うのかも知れへん。

I・・・意識が自動化されていくことはある。あれは多分記憶なんだからと思う。潜在意識化されたということかな。  
F・・・意識の練習法ってのはどう？

I・・・鍼は鍼で練習するのが基本でしょうね。  
F・・・最初は何かからやったの？

I・・・やっぱり骨。それから筋肉、血管、神経系。その間に臓器は入れて。  
N・・・脳は？ 結局脳に集約される気がするんではないか。

I・・・意識っていうのは身体全体なんだよ。身体にはいろんな反応が出て、いろんな刺激を受けるわけじゃない。そういうのも全部脳にあがって一つの意識を生み出してるわけですよ。全部の情報が脳っていう中枢に上がっているだけで、そこで意識っていうのが生まれてくる。

N・・・最後に一言お願いします。  
I・・・決まる瞬間って微動だにしないという感じがある。ピタッと止まった感じの時にすごく気が動く。

F・・・意識しなくてもいいぐらいになつてないとダメなんだよね。自分の身体のことを意識しては、鍼がうまく扱えないから。

I・・・補助的に瞑想や気功などをやって、意識の状態、身体の状態を色々体験しておくのは意義のあることだと思う。意識と体の関係を知るためにも必要なことだし。

F・・・集中することは、運動する時の筋力と同じで必要不可欠でしょ？ 集中力が強

くなれば普段と違う精神状態になる体験ができる。それは鍼を打つ時と同じだから、一回体験するとその状態に入りやすくなるやろかね。集中力が強くなればイメージも使いやすくなる。

N・・・ありがたうございました。

## お知らせ

原稿掲載

鍼灸ジャーナル01号

「巻頭座談会」p.5～20

「治療院訪問」p.108～109

鍼灸OSAKA 88号

「咳嗽の見方」p.47～51

医道MOOKシリーズ001号

圧痛点と鍼灸臨床 p.22～27

講演

三月九日(日)、絃鍼会三月例会で

「陰陽五行と易」の講演が行われました。

## 会長

先生

中谷哲

原稿掲載

医道の日本3月号

「便秘と鍼灸」p.57～61

編集後記

今回は「対談」を試みましたが、いかせん紙面の関係で割愛せざるを得ない部分が沢山あって非常に残念でした。

